

| | | | |
|------------|-------------------------------|------------|-----------|
| 2-4 | | | |
| 主題 | 不快なく安心して入浴実施につながる声掛け方法の効果について | | |
| 副題 | 入浴拒否が続いて3年以上、入浴実施に至るまでのプロセス | | |
| キーワード 1 | 入浴拒否 | キーワード 2 | 声掛け方法 |
| 研究(実践)期間 | | | 平成29年12月～ |

| | | | |
|-----------|-------------------------------|--|--|
| 法人名・事業所名 | 社福) 池上長寿園 大田区立蒲田高齢者在宅サービスセンター | | |
| 発表者(職種) | 石田 真由美(介護職)、石井 未帆(生活相談員) | | |
| 共同研究(実践)者 | 福王 一美(介護職)、大川 シャルイン(介護職) | | |

| | | | |
|-----|--------------|-------|--------------|
| 電 話 | 03-5710-0782 | F A X | 03-5710-0820 |
|-----|--------------|-------|--------------|

| | |
|-------|--|
| 事業所紹介 | 社会福祉法人池上長寿園・蒲田事業部門では、特別養護老人ホーム・地域包括支援センター・居宅支援事業所・リビングステーション・デイサービスで構成されている為、「地域で安心して生活できる地域づくり」に積極的に貢献しています。当センターは通所介護(総合事業)40名/1日、認知症通所介護12名/1日の事業所です。 |
|-------|--|

| |
|---|
| <p>《1. 研究(実践)前の状況と課題》</p> <p>平成24年4月より利用開始をしたAさん(81歳女性)は、平成26年8月より入浴サービスを開始するが「自宅で入っている」と強く拒否が見られた。同年9月、腰痛をきっかけに約2週間センターで入浴実施出来た日もあったが、腰痛が改善されると同時に入浴拒否が始まった。その後も職員は「入浴をしに行きましょう」と声掛けを行うが、毎回「家に入っている」「もうここには来ないから」と発言あり。この声掛けのやり取りが3年以上続いた。その背景には、強制入浴は利用拒否に繋がってしまう恐れがあった為、それ以上の介入もせずに日々が過ぎてしまった。現在Aさんは、週5回デイサービスを利用している。平成29年12月頃より衣類より尿臭が始まる。独居の為、別居の家族に確認をしたところ自宅では、入浴、肌着、衣類、リハビリグッズの交換も行えていない(着替えられていない)現状がわかり、センターでの排泄誘導、衣類交換、入浴の必要性が課題となった。</p> <p>《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》</p> <p>職員の声掛けに拒否なく、不快を感じることなく、安心・安全に定期的な入浴を継続出来る事を目的とし、次の4点を仮説とした。</p> <p>① センターでの排泄状況の把握を行い、汚染の現状を知り職員間で共有し、排泄誘導・入浴の実施の必要性を職員全体で認識し、まずは排泄誘導を行える事を優先し、入浴実施への手掛かりを探す。</p> <p>② 本人が安心して、リハビリグッズ・肌着衣類の交換及び、陰部清拭が拒否なく実施出来る事を期待して、排泄介入方法の検討を行い実践していくことで、脱着衣の不安の軽減が図れる。</p> <p>③ ②を繰り返し行うことで、本人と職員との間に信頼関係が築け、場所を変えての(浴室)衣類交換が行える。</p> <p>④ ②③を繰り返し行うことで、入浴実施に繋げることを期待した。</p> |
|---|

《3. 具体的な取り組みの内容》

【排泄状況の把握と職員間での情報共有】

平成29年12月中旬より、本人がトイレに行かれたタイミングを見計らって、「大丈夫ですか、汚れていませんか」とさりげなく声を掛けながら汚染の確認を行った。ケース記録やケース会議時に、汚染状況を共有し、次のステップ「肌・肌ツツ・衣類交換及び陰部清拭」に繋がった。

【交換及び陰部清拭の介入】

平成29年12月下旬頃より、1日1回肌・肌ツツの交換と清拭を行う事を職員間で共有し介入開始。日常生活動作は、ほぼ自立されていたが羞恥心が見られた為、タイミングを見計らって、「新しい物を準備したので、着替えて下さい」「温かい肌でお尻を拭くと気持ちがいいですよ」等の声掛けを促し、トイレ内での清拭と下着衣の交換をご自身で行っていただいた。繰り返し行うことで、職員との間に信頼関係が少しずつ芽生えてきた。

【場所を変えての衣類交換が行える】

雪が降った寒い日に「今日は雪も降っていてとても寒いので暖かい2階のお風呂場で着替えませんか」と声掛けを行うと「そうね」と浴室に行かれ、職員の声掛けにより脱衣しそのまま浴槽に向かわれ、初めての入浴実施となる。

【入浴実施の声掛けと検討と統一】

「寒いから」の声掛けは季節限定となってしまう事、その他の声掛け内容によっては拒否が見られる事から、声掛けの方法に検討が必要となる。入浴＝「家でお母さんと入る」等の発言もあり、母親の面倒を見ていた年齢まで記憶がさかのぼっている事が判明。Aさんは、「お手伝い」することを得意としていた。その事に着目し、入浴の声掛けを「お手伝いお願いできますか」とお風呂の入った籠を持ち運んでもらうことを行うと、拒否なく笑顔が見られ浴室まで行き、入浴することが出来た。

《4. 取り組みの結果》

「入浴、お風呂」という言葉がけでは、お風呂の浴室場面がイメージしにくく不安にさせてしまうようであった。またAさんは「自宅でお母さんと入っている」と言う発言から、実年齢より若いころの記憶を保っていることが判明。Aさんが得意としている「お手伝い」に着目し「お手伝いをお願いします」と言う声掛けにより不安も軽減され、浴室を見ると自ら脱衣し始め、入浴することが出来たが、時間を置いて入浴したことを確認すると、入浴したことをすでに忘れていた状況であった。

《5. 考察、まとめ》

「入浴・お風呂」と言う声掛けは、Aさんが混乱してしまう為、あえて使用せず別の言葉に変換した。安心して入浴が出来るように得意としている「お手伝い」をキーワードとすることにより、入浴に対しての不安・混乱は軽減され現在では100%の入浴が行えている。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

・東京都認知症実践者研修テキスト、リーダー研修テキスト

《8. 提案と発信》

〇〇拒否には、必ず理由があるので、傾聴や行動観察等を行うことで、一つずつ紐解き、チームで情報の共有・検討・実践・モニタリングの繰り返しによって、安心・安全なケアが提供していく事が出来る。